



故 鎌田 真人 准教授

## 故 鎌田真人 准教授 略歴・主要業績

In memory of the Late Associate Professor Masahito Kamada, A Brief of Survey of his Career and Works to Date

### [略歴]

1982年 岩手大学工学部卒業  
1982年～1990年 松下電器産業株式会社  
1987年～1990年 岩手大学工学部情報工学科 助手  
1990年～1993年 岩手県立宮古短期大学 助手  
1993年～1998年 岩手県立宮古短期大学 講師  
1998年～2004年 岩手県立大学宮古短期大学部 講師  
2004年～2007年 岩手県立大学宮古短期大学部 助教授  
2007年～ 岩手県立大学宮古短期大学部 准教授

### [学会および社会における主な活動]

2009年 宮古市社会教育委員  
2010年 宮古市生涯学習推進会議委員  
2016年 公益財団法人ふるさといわて定住財団評議員  
2010年 岩手県宮古保健所感染症審査協議会委員  
その他各種委員多数

### [教育及び研究業績]

2000年 CGF'99 第1回 CGF コンピュータ囲碁大会  
2002年 ニューラルネットワークによる5路盤囲碁の着手選択  
2004年 世界コンピュータ囲碁大会岐阜チャレンジ2004 実行委員会  
2006年 棋力認定問題によるコンピュータ囲碁の評価  
その他、研究発表多数

本学部着任以来、データベース演習、電子文書実務、データベース演習など多くの担当授業科目を担当されたほか、特別研究における教育で多くの学生を輩出しました。

### [表彰等]

2010年 平成22年度岩手県社会教育連絡協議会社会教育功労者表彰  
2020年 短期大学教育功労者表彰

## 足早に駆け抜けられた鎌田先生のお姿を偲んで

宮古短期大学部長 松田 淳

2022（令和4）年1月8日、本学部准教授、鎌田真人先生がご逝去されました。あの時から早くも1年以上の月日が流れてしまいましたが、遅まきながら『岩手県立大学宮古短期大学部研究紀要 鎌田真人准教授追悼号』を公刊するはこびとなりました。

鎌田真人先生は、1990（平成2）年、本学部の前身である岩手県立宮古短期大学が設立されたと同時に、助手として着任され、ご体調を崩されるまで、30年以上にわたって本学部で勤務されました。この間、データベース演習、電子文書実務といった情報科学分野の教育をはじめとして、コンピュータ囲碁の研究、学生部長、就職・編入委員長などの各種委員長として大学運営、宮古市社会教育委員、岩手県宮古保健所感染症審査協議会委員などの各種審議会委員として社会貢献にも力を尽くされ、本学部の礎を築くとともに、その発展にも大いに寄与されました。現役教員の中では、ただおひとり設立から勤務され続けた教員として、本学部で定年を迎え、本学部で教員人生を全うされるおつもりでいらしたし、我々もそれを願っておりました。しかし、2021（令和3）年秋、突然の病を得て、短期間のうちにご容体が悪化し、年明け早々に帰らぬ人となりました。

病が明らかとなった際に、先生が学部長室を訪ねてこられた日のことが忘れられません。極めて客観的にご自身の病状をご説明され、今後、検査・加療に入られること、さらにその後にご自身の身体に起きるであろうことを、ある種の覚悟をもって冷静に語られました。そんな時でさえ、先生が気にかけておられたのは、ご自身のことではなく、委員長を務めておられた委員会の職務のこと、受け持っておられた講義や演習の学生たちのこと、整理できていない研究室のことなどでした。「それは我々で何とかしますから、先生は何も心配されずに、まずは治療に専念なさってください」と申し上げましたが、実際に治療が始まってからも、毎日数時間、研究室にいらしては、黙々と書類や図書の整理をなさっておられました。あの時、無理にでもお止めしておけば、少しは病の進行を遅らせることができたのかもしれないと悔やまれましたが、ご家族や同僚からは、「むしろそうされることで先生ご自身が安心なさるのだから」と諭され、あらためて先生の人となりを知る思いがしました。ともに職務をこなしていた時期はもちろんですが、それ以上にこうしてご体調を崩されてからの先生のご様子を思い返すと、まさに先生の真摯に職務に取り組まれる実直なお人柄が如実に表れており、今もなおそのお姿が偲ばれてなりません。

ただ、惜しむらくは、最後の願いが叶えられぬまま先生が逝ってしまわれたことです。そのことは、先生ご自身やご家族の皆さまはもちろんのこと、我々にとっても心残りでありませぬ。先生は、まず「新年度」を迎えられるよう頑張ること、そしてご自身が続けてこられた囲碁の研究を成果としてまとめられることを願っておられました。しかし、その願いもむなしく、思いのほか病の進行が速く、「新年」早々に、先生の突然の訃報に接することとなり、愕然とするほかありませんでした。今も思い出されるのは、先生がいつも小脇に書類を抱え、真正面を見据えて、足早に廊下を歩かれるお姿です。まさに、先生らしいそのお姿のように、最後まで足早に人生を駆け抜けてしまわれました。

鎌田先生、最後くらい、お急ぎにならず、ゆっくり歩かれてもよかったですのではないのでしょうか。

あらためて、設立以来、本学部の教育、研究、大学運営ならびに社会貢献に力を尽くされた在りし日のお姿を偲び、感謝と哀悼の誠を捧げます。